

令和2年度 若年技能者人材育成支援等事業進捗状況

令和2年11月末現在

1 地域における技能振興事業

(1) 技能五輪全国大会予選の実施

| 項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|--------|--------------------------|--------------------------|
| ① 実施職種 | 3職種 (レストランサービス、電気、造園) | 2職種 (レストランサービス、電気) |
| ② 参加者数 | 14人 | 8人 (レストランサービス7人、電気1人) |

※補足説明・検討

◎コロナ禍の中、電気は予定どおり4/7に実施することができた。レストランサービスは新型コロナウイルスの影響で2度に渡って延期を余儀なくされたが、緊急事態宣言解除後の6/30に実施することができた(4/14→5/13→6/30)。造園は5/10に予定していたが、出場希望がなかった(出場ペアが見つからなかった)。

(2) 全国技能競技大会派遣支援

技能五輪全国大会、若年者ものづくり技能競技大会の参加選手及び指導者の旅費及び工具等の運搬費について援助を行う。

| 項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|---|---|--|
| ● 若年者ものづくり技能競技大会 主催：厚生労働省／中央職業能力開発協会 | | |
| ① 派遣人数 | 9人 | 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止 |
| ② 開催期日 | 令和2年7月29日～30日 | — |
| ③ 開催場所 | 広島県 | — |
| ④ 入賞状況 | — | |
| ● 技能五輪全国大会 主催：厚生労働省／中央職業能力開発協会 | | |
| ① 派遣人数 | 15人 | 11人 (配管1、電気1、左官1、家具1、フラワー装飾3、レストランサービス3、洋裁1) |
| ② 開催期日 | 令和2年11月13日～16日 | 令和2年11月13日～16日 |
| ③ 開催場所 | 愛知県 | 愛知県(愛知県国際展示場) |
| ④ 入賞状況 | 洋裁1人(銀賞)、レストランサービス1人(敢闘賞)、フラワー装飾1人(敢闘賞) | |

※補足説明・検討

- ◎若年者ものづくり競技大会は厚生労働省と中央職業能力開発協会が4/16に開催中止を発表。15職種の競技を予定していたが、新型コロナの緊急事態宣言が4/7に出されたこと、新型コロナの当時の状況を勘案したもので、今年度は中止となったが、本県からの同大会参加者は年々増加傾向。
- ◎技能五輪全国大会については、本県からも入賞者を毎年輩出している。本県からの出場者は昨年度17名であり、この事業が始って以来最も多かった。今年度は新型コロナの影響で昨年度より減ってはいるが(11名)、九州沖縄の中では福岡県、沖縄県の次に多い参加者数となっている。今回は早い段階から準備を進め、会場近くに宿泊所を確保できたことから、会場までの移動負担が減り、選手及び指導者から感謝された。
- ◎技能五輪全国大会については県民に広く知っていただく必要がある。技能検定の受検案内や協会機関誌、HP等の掲載による業界団体へのPRを実施しているが、県とも協力して一般県民等へのPRに今後一層取り組んでいく。12/24に入賞者の知事表敬が行われることになっており、これに関して県から記者発表する予定。

(3) 各種イベント・ものづくり体験の実施

技能振興コーナー主催のイベントを開催し、ものづくりマイスターや熟練技能者による実演やものづくり体験等を通して、技能の大切さや重要性を一般県民等に伝える事業を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|-------------------------|--------------------|---|
| ●おしごと体験教室2020 ① 実施時期 | 令和2年8月 | コロナ禍の中、8月22日(土)～23日(日)に参加募集人員を半数の600人に縮小し実施を予定していたが、県内に感染拡大緊急警報が発令されたことに加え、指導する団体の一部からの辞退もあり、中止を決定した。 |
| ② 実施会場 | シーガイアコンベンションホール 4F | — |
| ③ 内容 | ものづくり体験 | — |
| ④ 体験職種 | 16職種 | — |
| ⑤ 参加者数 | 1,200人 | — |
| ●ものづくりフェスタ ① 実施時期 | 令和2年10月～11月 | 令和2年10月24日(土)～25日(日) |
| ② 実施会場 | イオンモール宮崎 | イオンモール宮崎 |
| ③ 内容 | 実演、ものづくり体験等 | 実演、ものづくり体験等 |
| ④ 実施職種 | 17職種 | 17職種 |
| ⑤ ものづくり体験者数 | 1,200人 | 1,576人(うち小中学生884人) |

※補足説明・検討

- ◎おしごと体験教室2020は新型コロナの緊急事態宣言解除後、会場側と協議し、できる限りの感染防止対策を講じることで開催の準備を行ってきたが、7月下旬以降、県内で感染者が急増し

たため、やむを得ず中止とした。今回は従来の「キッズワークみやぎ」から「おしごと体験教室」に名称変更するとともに、運営委託業者の候補に新規イベント会社を追加した。企画提案による業者選定の結果、新規の会社と契約し、これまで以上に思考を凝らした内容で準備を進め、コロナ禍にもかかわらず、前回は上回る応募があった（1,844名→1,975名）。子どもたちも保護者もこのイベントを楽しみにしており、夏休みの恒例イベントとして定着してきた。継続による効果と考える。

- ◎ものづくりフェスタについては、体験ブースを拡大するとともに、より多くの職種に参加してもらうため、体験職種を半分に分け、これまでの1日間開催を2日間開催とした。会場側、参加者と協議の上、できる限りの新型コロナ対策を講じたことで、参加者の不安解消にも繋がり、会場側からも感謝された。結果的には過去6年間で3番目に多い参加者数となった。参加者380人にアンケートを実施したところ、全員が満足と回答した。

(4) 熟練技能者による実技指導

ものづくりマイスターの対象外職種など「ものづくりマイスター派遣事業」に該当しない職種に対して、熟練技能者を教育訓練機関等へ派遣し、技能検定試験問題を基に実技指導を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|----------|--------|------|
| 実施企業・学校数 | 2企業・学校 | 0社 |
| 参加者数 | 50人 | 0人 |

※補足説明・検討

- ◎例年実技指導を実施している「シーケンス制御」について、今年度は技能検定実技試験が実施されないため予定していた実技指導の申し込みがなかった。フラワー装飾については、新型コロナの影響でキャンセルとなった。

(5) 「地域発!いいもの」応援の実施

地域で行われている「技能振興」、「技能者育成」等の取組を「地域発!いいもの」として選定し周知する。当コーナーは、本事業の周知、募集、応募受付、中央センターへの申請書の送付等を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|---------|-------------------|---|
| 周知・募集方法 | 宮崎県コーナーのホームページ掲載等 | 宮崎県コーナーのホームページ及び協会機関誌への掲載、県・市町村への周知依頼文書発送 |

※補足説明・検討

- ◎中央職業能力開発協会が募集・審査・選定を行い、各県コーナーで周知・広報・受付等を行う。令和元年度までに19都道府県で34件が選定された。中央と連携して今後も周知・広報に努める。

(6) グッドスキルマーク事業の実施

一級技能士等が技能を駆使した製品等に表示する「グッドスキルマーク」の募集に係る周知、応募書類の受付及び中央センターへの送付等を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|---------|-------------------|--|
| 周知・募集方法 | 宮崎県コーナーのホームページ掲載等 | 宮崎県コーナーのホームページ・協会機関誌への掲載及び県内各技能士会に周知した結果、「畳工事一式」について1件申請中。 |

※補足説明・検討

◎中央職業能力開発協会が募集・審査・認定を行い、各県コーナーで周知・広報・受付等を行う。令和元年度までに全国で159製品が認定された。県内からは昨年度に1件認定された（製品名：畳）。今後も中央と連携して周知・広報に努める。

(7) 「卓越した技能者(現代の名工)の表彰」被表彰者紹介コンテンツの作成支援

中央技能振興センターが実施する被表彰者の技能を紹介するためのコンテンツ作成を支援するため、被表彰者の取材を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|------------|---|---|
| 被表彰者の取材を実施 | 令和元年度表彰受賞者について、推薦者の県を経由し、取材及び紹介コンテンツの作成を行う。 | 現代の名工(碁盤・将棋盤製造工)の熊須健一氏を取材し、 ・名工のプロフィール ・仕事に対する思い ・名工からのメッセージ についてコンテンツ作成の協力を頂き、中央センターへ提出した。 |

※補足説明・検討

◎昨年度から追加された事業。各県コーナーの取材内容に基づき、12月末を目処に中央職業能力開発協会HP「技のとびら」に掲載される予定。

2 ものづくりマイスター等の認定等事業

(1) ものづくりマイスター等の認定事業

宮崎県内の熟練技能者等を「ものづくりマイスター・ITマスター・テックマイスター」として認定するため広報、募集、相談等を行う。

| 実施項目 | 目標値 | 進捗状況 |
|---------------------------------|-----|-----------|
| ものづくりマイスター・ITマスター・テックマイスターの認定者数 | 21人 | 25人(10職種) |

※補足説明・検討

◎訓練コーディネーターが機会ある毎にマイスターの掘り起こしを行っている。過去3年間、もの

づくりマイスターの活動実績がない方のうち、今後、活動の意思のない17名については認定解除となったが、新たに25名の認定を行った。本県のものづくりマイスター認定数は九州沖縄では福岡県に次いで2番目。実技指導のニーズの高い電気系の職種のマイスターの確保を図る必要がある。今後ますますマイスター等の活躍の場を増やすためにも、企業の紹介等委員の皆さまにもご協力もお願いしたい。必要があれば当協会職員が訪問して説明を行います。

(2)ものづくりマイスター等への指導技法講習

認定されたものづくりマイスター等が指導を効率的、効果的に実施するための講習会を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|-----------|----------------------|------------------------------|
| 指導技法講習の実施 | 7月・9月・11月・1月 (4回) | 7月:5人 9月:5人(2回) 11月は該当者なし |

※補足説明・検討

- ◎マイスターが実技指導を行うに当たっての質の向上につながる重要な講習であると認識している。
2月には7名に対して講習を行う予定。

3 ものづくりマイスター等の活用事業

事業目標

- ・成果目標（参加者満足度） 95%以上 進捗状況 100%
- ・活動目標（マイスター活動数） 5,625人日以上 進捗状況2,714人日(48.2%)
- ・活動目標（ITマスター活動数） 60人日以上 進捗状況 40人日(66.7%)

(1) 「ものづくりマイスター」派遣による実技指導

ものづくりマイスターを中小企業、教育訓練機関、団体等へ派遣し、技能競技大会の競技課題又は技能検定試験問題を基にした実技指導を行い技能向上を図る。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|-------------------|--------------|-----------|
| 1 派遣日数（受講者数） | | |
| (1) 企業・団体 | 120日（480人） | 32日（185人） |
| (2) 高校以上・職業能力開発施設 | 185日（2,775人） | 27日（230人） |

※補足説明・検討

- ◎新型コロナウイルスの影響による前期技能検定試験の中止により、同講習も中止となったことから、計画を大きく下回っている。しかしながら、企業アンケートによると丁寧な指導で受講者の満足度は高い。
- ◎高校アンケートでは、1人1人に対して個別対応もでき、生徒も技能向上を実感していることから、実技指導の成果は出ていると考える。
- ◎12月以降、企業・団体で7日（46人日）、高校で54日（800人日）を予定している。

(2) 学校の授業等への講師派遣

小中学校からの要請に基づいて、学校の授業へものづくりマイスター等を派遣し、ものづくりの魅力を伝える講義やものづくり体験教室を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|--------------|--------|--------|
| 1 派遣校数・受講者数 | | |
| (1) 講師派遣の学校数 | 50校 | 46校 |
| (2) 参加者数 | 2,000人 | 2,061人 |

※補足説明・検討

◎新型コロナの影響で、年度初めにキャンセルの電話が相次いだり、感染防止対策を講じながら実施することや、中止ではなく感染状況が落ち着くまで延期することなどを学校側と粘り強く協議しながら事業を進めた。計画を大幅に下回ることが予想されたが、結果的には計画と同等かそれを上回る実績を見込めるまでになった。

◎学校側からは、コロナ禍中で不安はあったが実施してよかったとの声が寄せられ、満足度の高さが伺えた。また、今回、新規校が6校あったが、他校の先生から非常によい事業であるとの口コミ（紹介）で申し込んだとのことであった。

(3) 学校の教師等を対象とした「ものづくりの魅力」講座等への講師派遣

小中学校の教師及び保護者が「ものづくり」に対する理解を深めてもらうために、教師及び保護者を対象に「ものづくりの魅力」を伝えるための講義及びものづくり体験等を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|-------------|-----------|-----------|
| 1 派遣校数・受講者数 | | |
| (1) 教師 | 30校(120人) | 46校(166人) |
| (2) 保護者 | 10校(100人) | 8校(29人) |

※補足説明・検討

◎小中学生の将来の就業に大きく影響する教師、保護者にも「ものづくりの魅力」を伝え、理解を深めてもらうため、ものづくり体験への参加を促していく。

(4) 児童・生徒を対象とした事業所・訓練施設の見学会

小中学校からの要請に応じて、専門技能の必要性、重要性等を理解し、技能の魅力伝えるための見学会（講義・実演含む）を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|------|------------|------------------------|
| 参加校数 | 5校 150人 | 1校(43人教師含む) ・尚学館小学校 |

※補足説明・検討

◎新型コロナの影響で3校からキャンセルがあった。見学に行く側、受け入れる側、それぞれに不安があり、キャンセルもやむを得ない。学校及び事業所と綿密に打ち合わせしながら、できる限りの感染防止対策を講じつつ、実施していくしかない。

(5) 「ITマスター」派遣による実技指導

小・中学校の生徒を対象に、情報技術に関する興味を喚起するとともに、情報技術を使いこなす職業能力の付与が実現できるよう、ITマスターによる講義、実技体験を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|-----------------------------|------|--|
| 1 派遣校数・受講者数 (1) 講師派遣の学校数 | 3校 | 4校 10/30 延岡市立岡富小 11/12 都城市立東小 11/17 宮崎市立住吉南小 11/24 西都市立妻南小 |
| (2) 参加者数 | 60人 | 40人 |

※補足説明・検討

◎新型コロナの影響により実施が危ぶまれたが、訓練コーディネーターが学校に働きかけ、4校で実施することができた。

(6) 職場体験実習

一人親方や自ら事業を営んでいるものづくりマイスターに対して、当該職場ならではのものづくり体験の実施を含む職場体験実習を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|------|----------|------------|
| 実施職種 | 2職種(3日間) | 学校からの申出なし。 |

※補足説明・検討

◎各技能士会を通じて、職場体験実習の受け入れ要請を行った結果、7事業所から受け入れ可能との回答があった。該当地域中学校18校(宮崎市14校、延岡市4校)に当該事業所の情報を提供したが、現時点ではまだ申込みがない。コロナ禍中においては、学校としては参加に慎重になるのはやむを得ない。

(7) その他若者に対する各種事業への支援

地域サポートステーション及び若者の雇成型訓練を実施している事業所等からものづくりマイスターの派遣要請等があった場合に支援を行う。

現時点では、事業所等からの派遣要請等がないところである。

4 連携会議

宮崎県、宮崎労働局、経済団体、業界団体等による連携会議を設置し、ものづくりマイスターの派遣や技能振興の取組、事業実施に当たっての連携・協力の在り方の方針決定、年末に当年度の事業実施状況等の報告を行う。

| 実施項目 | 実施計画 | 進捗状況 |
|----------|---|---|
| 1 開催時期 | 第1回 令和2年5月～6月 第2回 令和2年11月～12月 | 第1回 令和2年5月27日実施 第2回 令和2年12月21日実施 |
| 2 構成メンバー | 宮崎労働局、宮崎県商工観光労働部、宮崎県教育委員会、宮崎県高等学校教育研究会工業部会、宮崎県中小企業団体中央会、(独)高年齢・障害・求職者雇用支援機構宮崎支部、宮崎県工業会、宮崎県技能士会連合会 | 宮崎労働局、宮崎県商工観光労働部、宮崎県教育委員会、宮崎県高等学校教育研究会工業部会、宮崎県中小企業団体中央会、(独)高年齢・障害・求職者雇用支援機構宮崎支部、宮崎県工業会、宮崎県技能士会連合会 |

5 まとめ

若年技能者人材育成支援等事業は厚生労働省からの委託事業であり、若者のものづくり、技能離れ等の実態を踏まえ、若者のものづくり業界への誘導、若年技能者の人材育成、技能尊重気運の醸成等を目的として、中央技能振興センターと各県技能振興コーナーとが協力して実施するものとなっている。

その中でも、事業の中核と位置づけられている「ものづくりマイスター」の取組については、マイスターが派遣された企業・学校の担当者や受講者から「熟練技能者から実践的な技能を学ぶことができた」などの高い評価を得ている。このような評価の背景には、地道に且つ確実に事業運営を重ねてきた成果があると分析している。この事業は、効果が目に見えて現れるものではないが、若者にもものづくりの情報を提供し続けるためにも、今後も長期的に粘り強く事業を継続してしていく必要がある。

なお、今年度は新型コロナウイルスの影響により、計画どおりの事業実施が非常に困難な状況となっている。コロナの情勢を注視しつつ、可能な限りの感染防止対策を講じながら、設定された活動目標に近づけるよう工夫しながら実施しているところである。